

6 議題	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 (1)長岡版総合戦略「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」(案)について(資料1) (2)土地利用部会の設置について(資料2) 4. その他 5. 閉会
7 会議結果の概要	第5回策定委員会までの経緯を踏まえ、長岡版総合戦略「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」(案)と土地利用部会の設置について意見交換が行われた。
8 会議資料	第6回次第 資料1 総合戦略(案)について 資料2 土地利用部会の設置について
9 審議の内容	
委員長	議事(1)長岡版総合戦略「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」(案)について、事務局より説明をお願いします。
市長政策室長	(資料1に基づき説明)
委員長	今ほどの説明に対して、質問などありましたら、発言いただきたいと思います。特に、総合戦略(案)の印象、あるいは感想なども含めてお聞かせください。
委員	26ページですが、「自主防災会助成金を交付するなど」と書かれていますが、だいぶ前にも助成金がありました。各公民館で自主防災をやれば助成があり、私も受けた覚えがあるのですが、これはどの範囲内で受けられる自主防災の積極的支援でしょうか。
政策監	自主防災活動をやった自主防災会に対して、1つの団体の構成人数ごとに助成金のランクが決まっていて、活動した実績を基に申請をしていただくと、この助成金が出るという仕組みになっており、現在も継続しています。
委員	表紙が平成表記で、中は西暦や平成表記があり、平成52年度と書いてあるものもありますが、そのころは明らかに平成でないと思います。この際、西暦で内容を統一したらどうかと思います。

市長政策室長	<p>確かに、少し現実離れしているところもあるかもしれませんが。他に日本語としておかしい表記もあるかもしれないので、もう一度よく見て、年号等は統一したいと思います。</p>
副委員長	<p>今言われるのもごもっともですが、今の日本の法律では、公文書は和暦を使うことと国からお達しが出ているので、平成 80 年であろうが何であろうがしょうがないのではないのでしょうか。</p>
市長政策室長	<p>確認させていただきます。</p>
委員	<p>7 ページですが、⑤のところに結果重視、Plan、Do、Check、Action、このサイクルに関わって出ています。全体の基本施策や主な施策、そのうちにまた細かなものが見えてくるとは思います。細かく見ると、現行の長岡市総合計画で取り組んできたものがかなり取り上げられてくるとは思います。つながっていると言ったほうがいいでしょうか。かなりの数だと思うのですが、ここで「具体的な数値目標を掲げるとともに」というのがありますが、目標の設定した根拠をどのように見たらいいのでしょうか。各課から上がってきたものをそのままつなげていくのでしょうか。新たに計画を立てる前に、平成 27 年度まで取り組んできたことの評価はかなり厳しくやるとは思います。それとつなげるときに、その数値目標を掲げた根拠等についての検討はどのようにするのか、どこかで全体のチェック機関みたいなものがあるのかを聞きたいです。</p>
政策企画課長	<p>まず、今回の長岡リジュベネーションの計画冊子に掲げている 5 年間の目標については、いろいろな方向づけをした中で、市民の方が分かりやすい一番大きい形で抽出したものです。そのため、下から積み上げてきているような形ではありません。今の情勢を捉えて、各部局分野からくる中で、いろいろな指標を考えたときに、より上位で人口減少対策として、ある程度 5 年間の目安として分かりやすくするということで捉えているものです。</p> <p>併せて質問のありました、7 ページの結果重視という考え方ですが、これは、全国どの団体も今取り組んでいるこの地方創生の計画において、前回までの会議でも説明したとおり、非常に今回は従来の他の行政計画に類を見ないくらい結果重視で、国はこの計画に取り組むように言っています。長岡市の考え方として、この計画冊子の下に、実際 5 年間でのそれぞれ当該年で実施していくべき事業がその都度出て、今回冊子に入れ込んだ目標とは別に、</p>

委員	<p>5年間での指標、あるいは1年、2年で終わる事業につきましては、その事業期間をもって図るべき指標を、その事業体ごとに実施する部署が責任を持って目標値を置かせてもらいたいと思っています。</p> <p>それがどういう形で検証されるのかですが、この総合計画策定委員会とは別に、総合戦略の策定において産官学金労言からなる会議体を設けています。その会議において、細かい詳細事業についての実施状況と成果について報告し、長岡市の行政が独り歩きで検証するのではなく、産官学金労言の参画いただいている機関の方々の会議で検証したいと思っています。そこまでのスケジュールは具体化していませんが、年度末くらいをもって毎年開催し、見直しをかけていくという形です。</p> <p>最後の質問ですが、今回の総合計画は今年度で完了しますが、総合計画の実施検証については、現在毎年度行っています。今回作らせていただいたこの地方創生に絡む長岡リジュベネーションについては、初めての取り組みですので、今まで長岡市がやってきた様々なオリジナリティの政策を中心とする効果や、今後の継続性については、方向としてこの計画には盛り込んでありますが、数値的な指標の概念については、今年度、あるいは来年度、再来年度という形で、きちんと管理をしていきたいと考えています。</p> <p>子育てと教育のところを見ると、「支援を行います、支援します」とあります。支援をするのは分かりましたが、どんな方にどんな支援をするのか、市民は何を望んでいるのか、どんな支援があったら人口減少だったり子育てが楽しいと思うのか、という細かいことを決めたり、文書になったり、具体的になるのは、いつごろどういう形でなるのかと思いました。「支援します」というだけではなく、その支援の内容のほうが、すごく気になりました。</p>
政策企画課長	<p>この計画冊子ではそれぞれの立場の方が興味を抱く詳細な事業までは今ご指摘のとおり読み取れず、あくまでも方向性を示し、支援を行う等のレベルで終わっています。</p> <p>具体的な支援の中身が出てくるのは、例えば記者会見で発表したり、毎月発行させていただいている市政だよりで周知を図ったりします。あるいは大きい話でいうと、毎年度、新年度予算を編成し、市民の方に軸となるような重点事業を発表する作業を行うので、その際に市政だよりでお知らせするなど、そういうところで今後詳細な事業が出てくると思います。実施したものについては、先ほど説明したとおり、積み上げる中での検証を、参画されている関係機関の方からの意見をいただきながら、毎年ローリングさせていきたいと考えています。</p>

委員	<p>市民、あるいは関係機関、団体の方の意見が反映されるかは、市の各部署が普段の日常的な業務で会議を開催したり、意見聴取等を行っていますので、そういう意味では反映されます。</p> <p>今回のこのリジェネレーションの計画は、あくまでもそういう細かい事業を实际組み立てていくときの方法として、市民に理解してほしいということで、基本施策、あるいは、もう1つイメージが湧くための主な施策という範囲でやらせていただいています。</p> <p>14 ページに「働く企業での事業所内保育」と書かれていますが、保育するのは非常にいいですが、病気になった子どもたちを、県では病後児保育せよ、病児保育せよと言いますが、やはり病気をしたとき、一番子どもが頼りになるのは親だと思います。もし、この企業内のこの言葉を使い、この中身は何ですかと言われたときに、できれば、そのお母さんを1時間早く上げてくれるとか、医者に連れていくとか、そんなことが具体的に出ると、子どもにとって、長岡って本当にいい子育てのまちなのだというのが分かるかと思います。文章で表さなくてもいいですが、何かのときに覚えていただくとありがたいと思います。</p>
委員	<p>農業者の立場で、今、次の世代の担い手が、長岡で魅力を持って農業をこれからやってくれるかというのは非常に危惧しています。その中で21 ページに「長岡の歴史や文化、自然風景などを活かしたグリーンツーリズムを強化し、交流・体験・滞在型などの交流人口を増やします」ということで、その下には、「長岡産の農畜産物、地酒、菓子の美味しさとともに、培われた物語を伝え、来訪者と交流を深めます」とあります。特にこの長岡の産業の中で、お酒と米菓については、やはりそのもとになっているのが米だと思います。この長岡の自然風土、特に山間地の農家と、そういったグリーンツーリズム、そのあたりと工業が連携した中で、農業者が直接、地元の企業とも連携したようなシステムをつくっていけば、ただ米を作るだけでなく、それがお酒になったり、米菓になったりします。そのあたりを積極的に進めると、若い人たちの農業を担う機会になるのではないかと思います。</p>
委員	<p>企業内保育がここに書かれていますが、長岡の市内で企業内保育ができる体制を整えられる企業がどのくらいあるかを考えていただきたいです。長岡の中には中小のさらに下の零細で、5～10人、15人の会社を営んでいる人たちが非常に多くいると思います。そういう所で働いているお母さんたち、お父さんたちにとって、この事業所内保育と言われても、すごく夢の、</p>

委員	<p>全然思い付かないようなことだと思います。</p> <p>それよりも、零細企業で一生懸命働いている、そういう人たちが子育てに精神的な余裕を持てるような政策など、零細企業で働く人たちの気持ちをくみ取って政策をしていただければ、ありがたいと思います。よろしくお願いします。</p> <p>私は、この若者世代に当たる年齢で、若者会議にも出席していますが、本当に若者会議が活発ですごくいい雰囲気です。こういう姿をどれだけ市外の人に見せるかで、人が集まってくるかが決まってくるように思います。内容自体は、これが本当に実現できたら素晴らしいものばかりだと思うので、全体をいかにきちんと、長岡は若者を応援しているというのが分かるように発信していくかが、これからの人口減少対策に必要なのではないかと思います。</p> <p>個別にということではなく、全体を含めて、長岡市民も長岡市外の人も分かるような発信の仕方が必要になってくるのではないかと思います。</p>
委員	<p>20 ページの交流で、交流人口を増やさないといけないということで確認をしたのですが、主な施策の1つ目は「受入れ環境を整備し、外国人の誘客を推進します」、2つ目は、錦鯉などがあり、全国、これは国内という意味ですが、推進します、と区別されていますが、このあたりは、書き方としていいのかという気がします。この2つの書き方について、教えていただきたいと思います。</p>
市長政策室長	<p>1 番目は、例えば外国人向けの Wi-Fi 関係の整備、あるいは英語でボランティアガイドをやるようなことを想定していました。2 番目のほうは、主に日本向けにいろいろ長岡で持っている特産品等を、PR して誘客をしたいということで考えていました。</p> <p>書き方、表現の仕方について、これがいいか、もう少しいいやり方があるかどうか、検討してみたいと思います。</p>
委員	<p>主な施策の中で、幾つか少し曖昧というか伝わりにくい表現があります。例えば、25 ページの上から3つ目で「インフラの長寿命化を進め、賢く施設を利用します」とありますが、賢くインフラを利用するというのはいったいどういうことを言っているのかと思いました。先ほどの7ページの結果重視のところでも客観的な指標を、実際に施策を行う際には設定するということが、できれば、もう少し分かりやすい、伝わりやすい表現であったほう</p>

委員	<p>がいいのではないかと感じました。</p> <p>先ほどの話にもつながりますが、この人口の将来展望のときに、長岡市の総人口は緩やかに減少していくと思いますが、その分布図は、いわゆる都市化し、長岡市内でも市街地のほうに全部人口が集中してきて、将来的に減少しているけれども、若者が増えていくというイメージなののでしょうか。この農林水産業の担い手の確保、経営基盤の強化、この裏にあるのは、やはり自然の豊かさや里山の風景を残すなど、風景、環境といった数値では表せない価値を、長岡市として次につないでいくことだと思います。市民アンケートで長岡市の魅力といったときに、やはり自然や里山、そういったものにかなり価値を見いだしている人がいると思います。農林水産業の担い手、兼業農家とか兼業漁業があるのか分かりませんが、そういった人たちへの支援といったものの重きの置き具合によって、総体としての人口だけでなく、分布としてどうなっているかも、ある程度意識したほうがいいのではないかと思います。そのあたりのイメージはどのように持っているか、お聞かせください。</p>
政策企画課長	<p>人口の分布をどう捉えているか、あるいはこの計画の策定においてどう捉えたかですが、今回のこの策定委員会におけるテーマは総合計画が根っこにあると思います。それに先駆けて、今日意見をいただいている総合戦略については、昨年来から全国的な人口減少対策と市の地方創生で、地方と中央における人、物、情報の流れに国を挙げて対処していくという考え方がベースになっています。</p> <p>したがって、人口推計をしていますが、当然、委員ご指摘のとおり、長岡の中に目を向ければ、ある一定の地域、地区の分布という概念がより強くなると思います。ですが、今回の地方創生の長岡版総合戦略策定においては、全体的なオール長岡で見た中での人口減少に歯止めをかけていくという考え方で、資料にも掲載しています。</p> <p>今後、具体的な施策を展開していくときや、あるいは今後の総合計画がより長岡の中に目を向けていく計画になりますので、その際には委員の方針のような観点は、より今度は見ていかなければいけないと思います。実務的には当然市内全体を見ていますが、この計画の策定において、出し方については、人口減少対策を地方創生で考える中で、分布というよりは、オール長岡で見た中での人口減少に歯止めをかけるというまとめ方をしています。</p>
委員	<p>今の地域別の人口ですが、この1冊で各地域のことを、市街化区域とか調整区域とか山間部とか、これをきめ細かく書き表すのは非常に難しいです。</p>

<p>副委員長</p>	<p>今までではない体制でするので、場所によっては、ものすごく減る地域もあれば、増える地域も若干あると思います。そのあたりは、また個々の計画できめ細かくやっていかなければ、対応するのが難しいのではないかとというのが、こういった参考にしたものを見て、言えることです。</p> <p>今、委員の言われたことは、総合計画が20年を見据えて10年分作り、計画として前期計画の5年分は具体的に作るとして、総合戦略がこの前半5年分だとすると、総合計画の中で地域別のことなどをきちんと書けばいいと思います。</p> <p>ただ、非常に懸念するのは、総合計画の中にこの総合戦略を取り込むということは、前期5年の計画はこの総合戦略の内容を全部入れることにならざるを得なくなると思います。総合計画は、その自治体の憲法というかバイブルのようなものですので、総合戦略が今後5年の足かせになる部分があるということをきちんと認識しておかなければなりません。先ほど委員が言われたのですが、事務方は数字をどうやって出してきたのかについて、各課が思っている数字をただただ上げてきましたではかなり危ないと思います。</p> <p>7ページの「⑤結果重視」に書いてあるところで2つ問題があり、「明確なPDCAサイクルの下に」と書いてありますが、どこにも明確なPDCAサイクルは示されていません。これはどこで示すのでしょうか。総合計画でこの明確なPDCAサイクルを示したとして、Planは、総合計画と総合戦略を作る部局が同じなのでいいとして、Doは市の中で全員がやり、Checkはどこかの機関がやるのだろうけれども、総合計画と総合戦略のチェック機関が同じなのは実はおかしい話で、ましてActionは誰がやるかというのもここで見せておかないと、総合計画の中で示しますで本当にいいのかが1点です。</p> <p>もう1つ、もう少し深刻なのは、KPIは客観的な指標にしろと言われていたのであって、客観的な指標がKPIではなく、重要な指標をKPIとして上げ、それを客観的なものにしろと言われていたのです。これを今見ると、基本戦略の1～7までに情緒的な指標があり、客観的な指標になっていないものが幾つもあります。これで国は認めてくれるのかどうかというのがまずあります。難しいのは分かりますが、例えば、健康寿命の延伸を図りますというのは、最新値だけしか示していなくて、どのくらい延ばすつもりなのかとか、あるいは、確か基本戦略3で、ふるさとへの愛着で、柔軟でたくましい人材を育てますと、こういうのは理屈からすると客観的指標にするのが無理だけでも、客観的指標で示さないと多分怒られます。ここをどうするのでしょうか。</p> <p>もっと深刻なのは、戦略1の基本目標で、5年間での目標に、転出超過</p>
-------------	---

委員	<p>500 人を 300 人にしますという目標を掲げ、なおかつ合計特殊出生率の 1.5 幾つを 1.6 幾つにしますと書いてあります。合計特殊出生率については、国の掲げている長期目標をもとに、長岡市の数字を出したと思います。では 5 年後、1.64 にならなかつたらどうするのでしょうか。長岡市が自ら上げた目標ですから、達成しなかつたら真意が問われます。5 年後に達成しなかつたら、誰がどう責任を取るのかというときに、PDCA のサイクルが見えていないと誰も責任を取らないで、結局、書きっぱなしになるということになります。</p> <p>もう 1 つ、最初に申し上げたように、総合計画の前期に総合戦略が入ってくるとすると、総合計画の 5 年後の見直しのときに、この数値は全部チェックされます。なぜ達成できていないのかがチェックされ、5 年後、もしくは 10 年後にこの数字を書いた人たちは責任を取らなければならない。そう考えると、数字の出し方は、達成できる、できるに決まっているという目標値を書くのが正しいとは言いませんが、書いたからには責任を取らないとまずいと思います。そのあたりの議論を、内部できちんとしているのかということをし少し懸念します。</p> <p>こういうところをあまり甘く考えていると、今の国は本当に成果主義で、相当厳しいところを突かれると思うので、そこが気になります。当然、長岡市内の方に説明するためには、総合計画の中にどう書き込むかということも、非常に気になることです。</p> <p>合計特殊出生率が、全国が上がっているから、長岡も上がってくるというのは、その根拠は何だろうと思いました。これは、かなり無理な人口推計をやっているという印象です。</p> <p>もう 1 つは、特に 10 歳～24 歳の女性が減ることで、生まれる子どもが減っているの、何とかその層をとどめて人口減少に歯止めをかけようというシナリオがこの中に 1 つできています。しかし、その施策を考えてどうなっているかという、1 つは子育て支援で、これは合計特殊出生率を上げることをメインとした施策です。もう 1 つは、高校、あるいは大学を卒業した時点で出て行ってしまう女性をどこでとどめるのかを、教育関係と思い、教育のところを読むと、書いてあるのは小学生の教育です。そうすると、その層の女性をここにとどめておくことができるような仕組みを、本当に考えているのかを疑問に思います。</p> <p>特に高等教育機関といわれる 3 大学 1 高専は、長岡技術科学大学は理系、高専も理系、長岡造形大学も芸術系とはいうものの、いわゆる女の子が好む芸術系とは少し違う産業デザインなどが中心だと思います。長岡大学も文系</p>
----	--

<p>政策企画課長</p>	<p>だけれども、経済、経営系ということで、そうすると、そこにとどまる要因がなく、そのあたりをどのように考えているのかという疑問がありました。少しそれは検討していただきたいと思います。</p> <p>今までの質問等について、まず1つは、市役所内部で議論した中で目標値等に係る質問ですが、十分議論を内部ではさせてもらったつもりでいます。</p> <p>表現で一番悩んだのは、地方創生は、30年、40年先のことを見据え、一方で総合戦略は5年間の計画を作るとストーリーになっています。国の指導が強いという発言がありましたが、まず国で通るかどうかは別として、長岡市として市民の方に分かってほしいので、この冊子の中の目標については、委員から指摘もありましたが、客観的という部分が欠ける部分もありますが、5年後、あるいはその先で、どういうイメージを市民が長岡市に抱くのかで、目安という表現で書かせていただきました。</p> <p>一方で、副委員長が言われたとおり、部課長職員が出るような国の地方創生の会議では、出口については非常にかなり厳しく言われています。そのため、この冊子とは別に、先ほど言ったとおり進捗会議をやりながら、具体的な施策のベースのところでは、短期で見た1年事業であったり、2年事業、長くても5年間での事業という捉え方をしていきますので、そこでは客観的な指標を置きたいと考えた中で、今回の計画を作らせていただきました。</p> <p>併せて、戦略1～7は、テーマを持って作り上げていますが、1つテーマで言われた合計特殊出生率等に係る部分として、若者の定着という部分で、3大学1高専及び15専門学校等の環境から、まずは学ぶというタイミング、卒業するというタイミング、地元に戻りたいというタイミング、このタイミングを捉えて、若い方々が長岡に定着というところでの戦略1をベースに置きながらも、子育て、あるいは教育というところの戦略を、複合的な合わせ技の中で合計特殊出生率を上げていきたいというストーリーを持っています。それが、実現するかどうかについては、5年間の毎年の検証の中で進捗管理をしたいと思います。</p> <p>副委員長が言われた責任論的な部分については、5年後にヒヤットするというよりは、毎年のローリングの検証を行っていく中で、でその方向を見極めていきます。毎年の具体的な施策の中での柔軟な対応によってより効果を高めていくことで、7ページの1つ上の直接性というところにはっきりとは記述していませんが、産官学金労言、いわゆる関係機関のより効果的な検証等という表現にとどめましたが、そういう仕掛けについては、少し記載を入れていきます。</p>
---------------	--

委員	<p>計画の作り方は、一つ一つ積み上げて目標を作るというのと、こうしたいという形から持っていくという2つ考えられると思っています。ただただ積み上げていくのが一番堅く、間違いないのができますが、残念ながら積み上げきれないのが現実だと思っています。</p> <p>みんなが良しとする大きな方向性を立てて、それを実現するために具体的な施策をやっていく。その中で、計画の分析を進めていくことが、残念ながら日本のいわゆる社会体制では、見えないと思っています。職員もこれが絶対自信があるのか、きちんと計算してあるのかと言われれば、やはりそれは全部積みきれないという社会の中で、見えないところがあると私は思います。</p>
委員	<p>今の話で、委員がおっしゃることは、企業にもあると思います。現実的なものがそれでかなうのかと言われたときに、経営コンサルタントがこの数値は現実離れしていると言う場合もあります。でも、やはり目標を高くして、そこに向かって何をやるかということになると、1割増くらいのことを言っていないと、私は学者ではないのでよく分かりませんが、若者たちはそこに敬遠して付いていかないのではないのでしょうか。</p> <p>それと、この冊子の中に、ながおか・若者・しごと機構がよく出てきます。それを通して、これが成り立っているという文言になると、かなりこの機構が重い責任を背負っているのではないかと思います。そのため、ながおか・若者・しごと機構が、若者と付いていますから、この総合戦略に縛られないで自由な発想で何かをつくるといった場合に、総合戦略には当てはまらない発想も出てくるかもしれません。逆にそれを通してしまうと、方向性が今度変わってしまうのではないかと思うので、ざっくりとした、ながおか・若者・しごと機構のイメージを聞いてみたいと思います。</p>
副委員長	<p>この総合戦略の策定プロセスで、大学からもアイデアを出してくれと言われて、造形大学からは7つ提案をしました。全部で五百幾つという話がありましたが、大部分は市役所の内部から出てきた提案だと聞きました。</p> <p>7つ出す前に、社会の増減のキーポイントが大学、進学であり、就職であるため、大学として、特に公立大学として、これは主体的に関わっていかなければいけないと考え、大学内にプロジェクトチームを設けました。そこで何をやるべきかということ話し合い7つ提案しました。それは、基本的に今日のリジェネレーションの中に入っていますが、かなり角が取れた形に入っています。したがって、造形大学としては、ぜひこれを今後、具体的に推進する中で、さらにお手伝いをしていきたいと考えています。</p>

委員	<p>先ほど、造形大学もプロダクトデザインで男子が多いと言われましたが、実は8割が女子です。それまでも女子のほうが多くて6割くらいでしたが、昨年は8割になりました。若い女性の外に出て行く割合が高いということなので、この8割の女性をどうやって長岡に引き止めるのかが、強制的にするわけにはいかないので、長岡ファンになってもらい、長岡に引き続きということをして自然にしてもらうような形を取らなければいけないと思います。就職の段階で長岡と言っても、もう遅いと思います。入学から就職まで4年間をかけて、長岡の地域、まちに出て行き、産業をよく知り、人と交わり、そして長岡っていいねと思ってこそ、自然と長岡を選択していくということだと思います。そうした取り組み、そうした機会をできるだけ大学として、教育とセットで、ぜひつくり出していきたいと思っています。</p> <p>それから、造形大学は長岡市内出身は1学年250人のうち20人くらいしかなく、7割が県外です。これをどう考えるべきかについては、また何かで議論しなければいけないのですが、多くの学生たちが外からやってくる。それを4年間で、いかに長岡はいいねというところに持っていけるかが、我々に課されているのだと思います。</p> <p>大学だけではなく、これはぜひ長岡の産業、まち、暮らしなど、そういう所と一緒にしてお互いに良くしていく、いい思いをしていくということをしてぜひやっていきたい。そのためには、例えば産業振興でデザインがどういうふうに役に立っているのかという、具体的なテーマを企業の皆さんと一緒に考えていくとか、まちづくりでデザインは大いに活躍できると思うので、具体的に、まち、地域をどういうふうでデザインで居心地良く、楽しくしていけるのかという、そういうテーマを見つけてやっていきたいと思っています。</p> <p>先ほど、ながおか・若者・しごと機構のイメージとありましたが、機構は、きっと今申し上げた機会を大いにつくり出してくれる、与えてくれる、そういう場だと期待します。機構をつくっていく、支えていく設立母体、それは3大学1高専15専門学校に期待されていると思うので、そうした学、それから、産業、企業、行政、金融、そうした設立母体がいかに、ながおか・若者・しごと機構を本気になって応援しきるのか。そのあたりがもう1つの鍵だと思っています。その意味でも、長岡造形大学としては大いに機構を支え、また活用し、自分たちの大学は長岡で頑張っているねと、あの大学はいい大学だよと言われる1つの活用の機会と捉えて、ぜひwin-winでやっていきたいと思っています。</p> <p>政策5原則の中に「直接性」とありますが、これまで同様、民間企業のノ</p>
----	--

委員	<p>ウハウ、民間企業と連携した形で様々な施策が取り組まれていると思います。その中で、子育てと安心・安全の部分で、いわゆるタニタという1企業の名前が載っています。特に、安心・安全の部分に関しての手段、政策に関して4つあるうち、3つが関係しており、タニタを利用することが何か目的に置かれてしまうような感じがしますので、バランスを考え、今後の展開を考えた中では、あまり特定の企業の名前を挙げるのはどうかと感じます。</p> <p>また、いわゆる戦略、または総合計画の中で、地域経済を活性化するというところに当然つなげていくわけですが、この総合計画、または戦略を見据える中で、民間はこの戦略に沿った中で、またさらに企業戦略を作っていきます。その中で、子育て、健康において、あたかも既にタニタありきで進んでいくとなってくると、それは地域経済や、外部のもの、もっとノウハウを持った企業が参入してくる足かせになるのではないかというところが、若干危惧するところです。</p> <p>先ほど、副委員長がおっしゃられた大学の活用ですが、20 ページのほうに「受入れ環境を整備」というのは、Wi-Fi が入るといのは分かりましたが、実はもう1つ入れてほしいのが、ユニバーサルデザインのまちづくりで、非言語化を進めるまちです。いわゆる何でもかんでも翻訳しているまちというのは、もう追いつかないと思うのです。</p> <p>今、造形大学が持っている一番のデザイン性は、ピクトグラムだと思います。トイレがもうピクトグラム化されて万国共通ですし、そういうものが非常に明確につくられることで、デザインというシンプル化と、もう1つは言語化のWi-Fi がうまく合体する形での環境整備というのは、ある程度明確に示されたほうが、私としてはいいかなと思います。</p> <p>もう1つは、観光客は、横一列でここを目指してくるわけではなく、ゴールデンルートを通り、ドラゴンルートを通り、その3巡目のリピーターをどうするかといったときに、魅力づくりなどをもう少し真剣に考えたほうがいいです。そういうことも含めてそこにしかないものの情報発信など、ある程度絞り込んだほうが、分かりがいいかと思います。</p>
委員	<p>全体的に方向は、もう前から話されているのでいいですが、例えば高齢者福祉計画や、各セクションでいろいろな計画が立っています。それと一体性のある、そしてまた、それがその延長上に総合計画になるような大きい形を意識してこの戦略を出すといいのではないかと思います。</p> <p>もう1つは、施策で、わりあい具体的に書いてあるものと、さっと全体的に、抽象的に書いてあるものがあります。具体的に考えたときに、施策のと</p>

委員	<p>ころに書き切れない部分があるとするならば、その手前で、これはどういう事業展開をしていくのかというのが、気になるところです。先ほど質問があったように、そこからの一体性というものも、特にこれを作るのが目的ではなく、市民が共有し、こういう方向で長岡の地域再生をしていこうという情報の共有が一番大きい目的ですので、そこが全体的にあるといいなと思いました。</p> <p>全体的な感想は、タイトリングでリジュベネーションという、若返るといふのをどう客観的に市民に伝えるかという部分です。</p> <p>また、人口構成の部分で、コンサルは、社会減を年度ごとにシミュレーションすると、多分 2040 年はこういう姿になりますというのを出してきています。でも、事務局はこれの基になる全体の毎年の移動状況のデータを持っているはずで、それを数値で持っていてなかなか理解できないので、年度ごとのグラフを作ると、全体の動きが年度ごとにしっかり見えるようになるので、今後の進捗管理のときには大いに参考になるのではないかなという感じがします。</p> <p>都市が若返るといふのをどう伝えるかという部分で、もう少し、そういった説明がないと、リジュベネーションという言葉が、市民にどう伝わるかというのが少し心配な感じがします。そこを少し考えていただければと思っています。</p>
委員	<p>地元企業として、人口減少は非常に地域経済を縮小していくため、当事者として考えていかなければならない課題です。</p> <p>この主な施策を読む中で、私自身も具体的な施策を、どのような形で結び付けていくかとをいろいろ考えているので、ぜひ実現のために、全面的に協力させていただきたいと考えています。</p>
委員	<p>いつも皆様のここまでの様々な表現を駆使して伝えたいと思われる熱意、非常に頭の下がる思いです。ただ、熱意が先走って表現的にはどうかというところを拾っていくと、ないわけではありません。</p> <p>先般アンケートを実施されたということなので、そのアンケートの内容がどのくらいここに、的確に反映されているかという疑問が 1 点あります。</p> <p>あと、戦略の中でも、特に、戦略 3 の教育で気になったところが 1 つあります。15 ページの戦略 3 の、基本施策 3-1 に関するところですが、主な施策ということで、「人口減に歯止めをかけ、豊かな社会を築いていくため、家族や家庭の意義を学ばせる教育を進めます」というところです。子どもた</p>

	<p>ちを見ていると、子どもの責任ではなく、あくまでも大人の責任で、今の子どもたちはこういうふうになっているのだろうと感ずることが非常にたくさんあります。それは生まれた世代、時代であったり、環境であったりと思いますが、そのあたりを施策に入れるかは別ですが、もっともっと親の教育もしていかないといけないと感じています。</p> <p>あと、人口減少に関してですが、グラフで幾つか示されていますが、社会減については、もう既に平成6、7年度、今から20年前に社会減になってきているところが顕著になっています。この20年の間に、実際現場が何も手を打ってこなかったとは思っていませんが、その中で、何かできたはずのことがうまくいかなかった結果が、減少につながっていていると思います。将来的な展望で、増やしていくというのは、本当に国レベルで見ても難しく、新潟県のレベルで見ても人口減は大きな問題です。人口が減っていくと、どういうことが困るというようなところを現実の問題としてみんなが共有し、人口が減っていくことのデメリットをみんなでも必死に考えていかないと、将来的な展望といっても無理だと思います。</p> <p>この資料の中の、最後の43ページの人口構成イメージですが、国の研究所の推計に比べますと、長岡市の将来展望は、0歳～4歳のいわゆる子どもといわれるところと、若者の人口が非常に、本当に展望なのだというくらいになっています。本当に展望が、展望であってしまっただけでは困るので、そこに今、私たちができることというのをやはり真剣に考えていかないといけないというのを実感しています。そこでできることは何なのかというのを、やはり多くの声を拾い、それをまとめ、形にしていくのは本当に大変なことでしょうが、もう少し危機感を持たないとできないこともあるというのが実感です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。各委員から貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。事務局でよく検討した上で、今後活かしていただきたいと思います。これで議事の(1)を終了させていただきます。</p>
政策企画課長	<p>次、議事(2)土地利用部会の設置について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>(資料2に基づき説明)</p>
委員長	<p>今ほどの説明に対して、何か質問等ありましたら発言いただきたいと思います。</p> <p>ないようなので、議事の全体を通して、これまでの各委員からの発言や事</p>

委員	<p>務局からの説明について、何かご意見、ご質問がありましたらご発言いただきたいと思います。</p> <p>1つお願いしたいのは、この戦略は5年間です。5年はあっという間だと思います。人口減少のことを盛んにおっしゃっていますが、5年で人口を、出生率を増やすというのは、はっきり言ってできないと思っています。</p> <p>もう少し具体的に、例えば外から来た人や、ここに住みたいと思ったときに、よその行政機関、市町村と明らかにここは違うという何かを打ち出したほうが良いと思います。例えば、長岡市の小さい子を育てる環境はだんだん整いつつあります。若者がここで定着する、仕事をしたいというときに、仕事を続けられる環境が重要です。やはり子どもが小学校に上がったときに、学校からお昼くらいに帰ってくるようでは駄目です。なので、長岡市は2年くらいの中に全小学校に学童保育を設置する方針でやりますという感じの、長岡市のいいところは何ですかと言われたときに、ぱっと誰でも言えるような具体的なものが欲しいと思います。</p> <p>優しいまちは全国どこも優しかったり、総合戦略には、全住民に当てはまること書いてあるのですが、それは長岡市でなくても、よそも考えていると思うので、もう市として、これというもの、説得できるものを打ち出してもらいたいと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。他にございませんでしょうか。</p> <p>では、予定していた議事が終わりましたので、進行を事務局にお返しします。よろしくお祈いします。事務局、お祈いします。</p>
政策企画課長	<p>(第7回の開催日時について報告)</p>
政策企画課長補佐	<p>本日は貴重なご意見、大変ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、第6回の長岡市総合計画策定委員会を終了いたします。</p>